



「知への初々しい憧れと畏敬の念」

～子どもの学びを支える教師力・学校力の強化～

校長通信第110号 令和4年10月15日

東京航空地方気象台の皆様の出前授業

本校では、5・6年生のキャリア教育の一環として、羽田空港で働いている方をゲストティーチャーに招き、昨年度から授業を行っています。今回は5年生を対象にして、10月13日に気象庁の東京航空地方気象台の5人の気象予報官の方にご来校いただき、授業をしていただきました。

授業構成は2部形式。第1部は、仕事紹介と防災について講義をいただきました。「気象庁」という言葉を聞いたことのある人はいるかの講師からの質問に、ほとんどの子どもが手を挙げました。そして、気象台の仕事の大きな目的は、災害の危険から命を守るということを教えていただきました。特に、航空機の離陸時、着陸時、飛行時の気象をタイムリーに捉えたり予想したりし、各航空会社や管制の判断に使ってもらうという大事な仕事だということを知りました。テレビでよく見る天気予報は気象予報士という民間の方だということも教えてもらいました。子どもたちの意欲を高めるために、クイズも用意してくれました。「北風が吹くとき、航空機はどの報告から着陸するか」などです。答えは「南から」。向かい風で着陸するのがよいとのことで、気象予報官は、その時の気象の状況を管制に伝えるとのことでした。また、台風についても学習。既に授業で学んだことをおさらいしてくれ、子どもたちにはよい復習となりました。

第2部は、ハザードマップを使って台風が起因となる災害について、グループになって考えました。糀谷地区は洪水になるとどれくらいの水の深さになるのか、どこに避難するのか（糀谷中・糀谷小）について、具体的に意見を出し合いながら考えました。

東京航空地方気象台の予報官の仕事は、我々の生活を守るためにとても大切なことをしていることに気付かされた時間となりました。

